科学技術振興調整費
15年度配分先117課題決定

平成十五年度科学技術振興調整費の配分先が決定した。応募総数千二百七十八件の中から百十七課題が採択された（採択課題一覧は七面に掲載）。採択率は、最も競争率の高い先導的研究等の推進で三・九％（申請三百九件に対して採択十二件）から科学技術振興に関する基盤的調査五〇％（申請十件・採択五件）とプログラムによって大きく異なっている。

予算規模が年間約十億円と大きく競争の激しい、戦略的研究拠点育成では、四十二件の申請の中から東北大学大学院医学系研究科、北海道大学創成科学研究機構、物質材料研究機構の三拠点が選定された。

また、新興分野人材育成では、ライフサイエンス分野を中心とする融合領域四件、基盤的ソフトウェア三件、知的財産三件、融合領域二件の拠点が採択されたが、申請ベースではライフが二十四件で最も高く、知的財産と融合領域は八件ずつと競争は激しくなっているようだ。

産学官共同研究の効果的な推進では、申請百七件に対して十六件が採択された。他の産学官連携支援制度と比べると採択率一五％と少し狭き門となっている。若手任期付研究員支援では、申請二百二十三件に対して二十件（採択率九％）とまだまだ厳しい。

また、振興調整費を特徴づけるプログラム科学技術政策提言は、申請三十件・採択六件・採択率二〇％だが、科学技術が社会の安心・安全にいかに貢献できるかで二件、科学技術関係人材の育成・確保方策二件、融合・境界領域を推進するための方策二件が採択された。

文科省 15年度科学技術振興調整費新規課題

質結晶X線回折装置の開発」理学電機
◇板谷正紀・京都大学大学院医学研究科「網膜血管内治療用マイクロカテーテルの開発」ニデック、アイアール
◇篠崎和夫・東京工業大学大学院理工学研究科「Si基板上への強誘電体光学単結晶薄膜育成に関する研究」富士通研究所
◇緒方直哉・千歳科学技術大学「高機能化DNAによる情報通信技術の開発」フォトニックサイエンステクノロジ、日本化学飼料、トレキオン
◇長康雄・東北大学電気通信研究所「SNDM強誘電体プローブメモリ」パイオニア
◇中島邦彦・九州大学大学院工学研究院「光源用Si○

総合文化研究科「環境ホルモン記憶学習撹乱の新型電極計測」アルファメッドサイエンス
◇近藤豊・東京大学先端科学技術研究センター「次世代エアロゾル計測器の開発と標準化」東京ダイレック、三友プラントサービス
◇三浦則雄・九州大学先端科学技術共同研究センター「自動車触媒の性能監視用排ガスセンサの開発」リケン
◇小川利紘、日航財団「定期旅客便による温室効果機体観測のグローバルスタンダードの解明」

◇小林聡・筑波大学基礎医学系「酸素センサーを介した転写制御機構の解析」
◇原田高幸・東京医科歯科大学難治疾患研究所「神経変性疾患におけるグリア細胞の機能解析」
◇山本慎也・産業技術総合研究所「道具使用の脳内表現」
◇安形高志・産業技術総合研究所「発生・分化における糖鎖受容体の機能解析」
◇増田雄司・広島大学原爆放射線医化学研究所「哺乳類での突然変異誘発の分子機構」

分光器の開発」
◇大谷亨・北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科「微量物質の迅速検出を目指した蛍光センサー」
◇山下健一・産業技術総合研究所「マイクロ流体システムによるナノ分子操作」
◇石川覚・農業環境技術研究所「イネのカドミウム吸収関連遺伝子座の同定」
◇岩根泰蔵・国立環境研究所「抗菌殺菌薬品の環境微生物への生態環境評価」
◇崔宰源・国立環境研究所「臭素化ダイオキシン類の環

ステムのバリアフリー化に関する研究」
◇野口和彦・三菱総合研究所「生命倫理の社会的リスクマネジメント研究」
◇小林信一・産業技術総合研究所「研究者のノンアカデミック・キャリアパス」
◇高橋克忠・けいはんな文化学術協会「サイエンス・メディエーター制度の推進」
◇玉井克哉・東京大学先端科学技術研究センター「広義の技術移転に対応する仕組みの構築」
◇河口洋一郎・東京大学大

マシン創成」
◇岩井洋・東京工業大学フロンティア創造共同研究センター「Nano-CMOS超低消費電力デバイス技術」
◇中西八郎・東北大学多元物質科学研究所「テラヘルツ波応用のための新結晶材料の開発」
◇逢坂哲彌・早稲田大学名誉記念材料技術研究所「ナノ界面制御による磁気記録材料の創製」
◇小池俊雄・東京大学大学院工学系研究科「地球水循環インフォマティクスの確立」